

開講年次・時期	2年通年	授業回数	30回	時間数	60時間	必修・選択	選択	授業形態	演習	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	-------	----	------	----	-----	-----

科目コード	NC230	科目名	医療的ケアⅡ	担当者名	橋爪 直美
授業の概要	医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を身に付ける。筆記試験により基礎知識の定着を確認し、シミュレーターを使用した演習により安全に実施するための技術について学ぶ。準備から後片付けまで、感染予防に留意する必要性を理解する。				
科目の到達目標	①喀痰吸引と経管栄養について、安全・適切に実施できるよう、知識・技術を習得する。 ②清潔操作について理解し、実施できる。医療的ケアを受ける人の気持ちを理解でき、説明し同意を得ることができる。 ③共通専門用語を理解し、医療職との連携、情報の共有ができる。				
DPの観点	⑥専門知識・技能 ⑦思考力 ⑧実践力 ⑨主体性				
授業時間外学修(予習・復習)	テーマ、内容に合わせて、テキスト内に記載されている技術写真を確認し、演習に臨む。予習・復習をそれぞれ1時間程度行うこと。				
フィードバックの方法	授業担当者よりその都度、技術確認のうえ個々の必要性に合わせた指導がある。				
単位認定の要件	知識として、5回目授業内で実施される筆記試験(※注)において、正解率9割以上を合格とする。技術として、演習において一つの技術につき一人5回以上ずつ実施すること。最終技術確認では、厚生労働省の規定に基づいた内容で判断し、基準へ達していることが認定要件となる。 (※注)社会状況の変化により、50時間の講義時間を確保するため。				
評価の方法・割合(%)	授業内提出物 30%、授業内活動 70%				
履修上の注意事項	医療的ケア基本研修の演習科目として位置づけられる(5回目まで講義と試験。最終試験90点以上で演習へ進むことができる。)。厚生労働省の定めにより、実時間50時間の講義を受講、演習は各技術5回以上ずつと救急蘇生法を1回以上実施する。				

回数	予定	実施	テーマ・内容	観点	方法
1			医療的ケアの必要性	⑥⑦	手技確認シート
2			高齢者及び障害児・者の経管栄養手順①、経管栄養小テスト	⑥⑦	手技確認シート
3			高齢者及び障害児・者の経管栄養手順②	⑥⑦	手技確認シート
4			高齢者及び障害児・者の経管栄養手順③	⑥⑦	手技確認シート
5			高齢者及び障害児・者の経管栄養手順④最終筆記試験実施	⑥⑦	手技確認シート
6			演習についてのオリエンテーション。青森県での取り組み。	⑥⑦	手技確認シート
7			口腔内からの吸引①	⑥⑧⑨	手技確認シート
8			口腔内からの吸引②	⑥⑧⑨	手技確認シート
9			口腔内からの吸引③	⑥⑧⑨	手技確認シート
10			口腔内からの吸引④	⑥⑧⑨	手技確認シート
11			鼻腔内からの吸引①	⑥⑧⑨	手技確認シート
12			鼻腔内からの吸引②	⑥⑧⑨	手技確認シート
13			鼻腔内からの吸引③	⑥⑧⑨	手技確認シート
14			鼻腔内からの吸引④	⑥⑧⑨	手技確認シート
15			気管カニューレからの吸引①	⑥⑧⑨	手技確認シート
16			気管カニューレからの吸引②	⑥⑧⑨	手技確認シート
17			気管カニューレからの吸引③	⑥⑧⑨	手技確認シート
18			気管カニューレからの吸引④	⑥⑧⑨	手技確認シート
19			口腔内からの吸引技術確認	⑥⑧⑨	手技確認シート
20			鼻腔内からの吸引技術確認	⑥⑧⑨	手技確認シート
21			気管カニューレからの吸引技術確認	⑥⑧⑨	手技確認シート
22			胃ろう、腸ろうからの経管栄養①	⑥⑧⑨	手技確認シート
23			胃ろう、腸ろうからの経管栄養②	⑥⑧⑨	手技確認シート
24			胃ろう、腸ろうからの経管栄養③	⑥⑧⑨	手技確認シート
25			胃ろう、腸ろうからの経管栄養④	⑥⑧⑨	手技確認シート
26			経鼻胃管栄養カテーテルからの経管栄養①	⑥⑧⑨	手技確認シート
27			経鼻胃管栄養カテーテルからの経管栄養②	⑥⑧⑨	手技確認シート
28			経鼻胃管栄養カテーテルからの経管栄養③	⑥⑧⑨	手技確認シート
29			経管栄養の技術確認①	⑥⑧⑨	手技確認シート
30			救命救急に伴う一連の動作を実施、AEDの使用方法	⑥⑦⑧⑨	手技確認シート
期末試験	最終技術試験を実施する				

使用テキスト	新・介護福祉士養成講座15「医療的ケア」(中央法規) 荘村明彦
参考文献 参考URL	気管吸引教育ガイド(メディカ出版)長谷川素美
備考	進行状況により、授業のテーマ・内容は変更になる場合がある。

10の観点	①聴く力②表現力③柔軟性④協調性⑤社会性⑥専門知識・技能⑦思考力⑧実践力⑨主体性⑩問題解決力
-------	--

授業の自己評価	
---------	--